

尘肺病、格律诗和“夜航船”：朋友们心目中的“煽动罪犯”王建兵

じん肺、韻律詩、そして「夜航船」：友人たちが見た「転覆扇動犯」王建兵

「WOMEN 我们」原文 <https://women4china.substack.com/p/xuebing-wangjianbing>

2024 年 6 月 14 日 筆者：林亜明 編集：于長夜 ウェブ編集：覃山

「私は彼が勇敢で、恐れを知らず、偉大であると言いたいわけではありません。これらの簡潔な言葉は彼を単純化してしまいます。彼は沈黙を使ってそれらの『求而不得（求めても得られない）』という事柄を昇華し、また彼は自分の行動によって『理应如此（そうあるべきこと）』を書きました。」



2024 年 6 月 14 日午前、黄雪琴と王建兵に対する一審の判決が下された。

黄雪琴は懲役 5 年、政治的権利剥奪 4 年、個人財産 10 万人民币元の没収。王建兵は懲役 3 年 6 か月、政治的権利剥奪 3 年、個人財産 5 万人民币元を没収するという判決。罪状は「国家権力転覆扇動罪」。報道では、黄雪琴はその場で控訴の意思を示し、王建兵は上告について弁護士と相談するという。

「雪餅事件」※の判決は、まさに 2 人の拘留期間が千日間に及んだタイミングで下されたものだった。

※訳注：王建兵は名前の「建兵」と相似音の「煎餅」（中国クレープの意味）を自身のウィーチャットのアカウント名として使っていたことから、仲間たちは 2 人のことを、黄雪琴の「雪」と煎餅の「餅」を合わせて「雪餅」と呼んでいる。

「雪餅事件」の裁判が行われた広州市中級裁判所はステンレス製の柵で仕切られて近づくことはできなかった。周辺には多数の警備要員配置のほかに、私服警官や「地域ボランティア」などがいた。ジャーナリストや支援者は裁判所敷地に入ることができなかった。（画像出典：X アカウント@FreeXueBin）



「WOMEN 我们」は昨年の開廷に合わせて黄雪琴について報じ（「[黄雪琴是谁？](#)（黄雪琴とは誰なのか？）」）、これによって著名な調査記者であり女性の権利活動家でもある黄雪琴の経歴が広く知られるようになった。黄雪琴と比較すると、王建兵はそれほど著名な「報道対象」とはみなされてこなかったためにインターネット上には王建兵に関する情報が少なく、友人たちは彼の活動を知っていたものの、その詳細はほとんど把握されていなかった。王建兵は大学卒業後の 2005 年から本格的に社会運動に参加し始め、当初は北京市西部陽光農村発展基金会で農村教育プロジェクトに取り組み、2014 年に広州に移住し、恭明社会組織発展センターで青少年成長プロジェクトと障害者コミュニティのエンパワーメントプロジェクトのディレクター兼コーディネーターとして各プロジェクトの立ち上げとコミュニティの支援に従事した。2018 年からは、職業病を患う労働者の権益の擁護とサポート活動に注力し始め、法的支援の提供も行ってきた。

彼の友人の一人は、彼について次のように話す。「社会運動では、非常に有名になる人と耳目を集めない人がいますが、王建兵は後者のタイプです。」

王建兵が逮捕された後、支援グループがしばしば使用したこの写真は、登山の際に撮影された写真だった。（写真提供：「雪餅」の友人たち）



西北の村落から来た「実直な子」

「息子は子どもの頃から実直で、悪事は働かない人間だと思ってきました。友達を騙したとか嘘をついたというようなことを言うこともありませんでした……ほかに考えられる理由があるとすれば『自由の自由』に関することですかね……国の政策も以前と変わってしまいました。」

王建兵が育った場所は甘粛省天水で、これは最近「天水麻辣燙」（※「燙」はスープの意）がネットで話題になった土地だ。今年3月、王建兵の友人の小木（シャオムー）が故郷を訪れたときに彼が目にしたのは、貧しい土地柄の街で、誰もが「天水麻辣燙」の時流に乗ろうと懸命に働いている光景だった。

王建兵の故郷は天水市から30分ほど離れた村にあり、村には幹線道路が1本走っているだけで、その両側に家が建っている。天気が良ければ道の両側には、おしゃべりしたり日光浴をする人々でひしめく。彼はここから西北師範大学（甘粛省蘭州市）に入学し、卒業後に北京で就職し、そのあと広州に移住した。

昨年9月、広州市中級人民法院で「雪餅事件」の一審公判が始めて開かれ、王建兵の父、王治学は甘粛省から高速鉄道で11時間かけて広州に駆けつけた。王治学は荷物を一つ背負ってきただけで、出発前に移動中の軽食として買ってきた赤と緑の具が入った五仁餡月餅がホテルのテーブルに置かれていた。彼は傍聴席で息子の背中から1メートル離れたところに座っていた。王建兵は退廷するときに父親をちらっと見た。

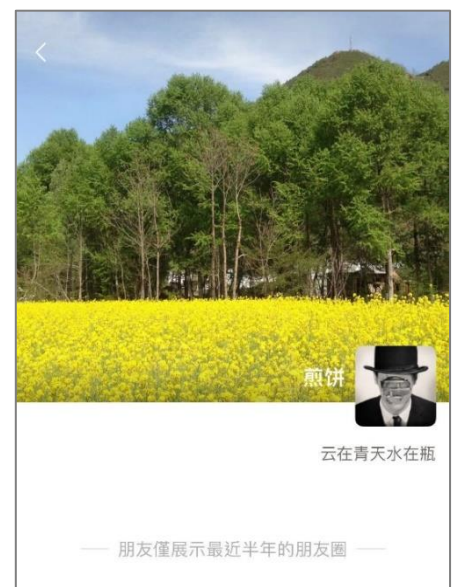
王治学は、法廷で王建兵が手錠をかけられ、灰色のTシャツと長ズボンを着ている姿を目にしたが、じっと見続けることはできなかった。この時、最も気にかかったことは、弁護士に衣類の差し入れを託すことだったという。「彼の体調は良くないようで、以前より10キロも痩せているようでした」と語り、最後には「弁護士に託しても届かないかもしれない。監獄に着いた頃に送るしかないな」と独り言のようにつぶやいた。

昨年の審理は午前9時ごろから午後4時まで続いた。王治学は弁護側弁論を含んだ審理内容を法廷で聞き、これによって初めて息子が遠方でしていたことのすべてを理解した。「息子は文章を書き、意見を表明したこと、そしてその事実を認めています。社会がより良く、より調和的なものになることを望んだからです。国家転覆扇動、反党、反国家などを企んだことはなく、そんな考えもなかったと息子は述べました。」

黄雪琴と王建兵の事件の起訴状は昨年の裁判後に公開されたが、王建兵に関する犯罪証拠は多くなかった。「被告の王建兵は大学卒業後、我が国の国家政権転覆を目的とした『中国ジャスミン革命志願軍団』、『六四大虐殺記念館』など海外のオンライングループに相次いで参加し、我が国の政治制度や政府を攻撃する虚偽の言論および文章を海外のソーシャルメディアやオンラインプラットフォーム上で繰り返し公開または拡散した。2020年5月から10月にかけて、被告人の王建兵は留学先の英国において『非暴力トレーニング』に関するオンライントレーニングのコースに参加した。」

これらの有罪証拠について、「雪餅事件」の状況をモニタリングしているグループ「FreeXueBing」は疑問を持っている。このグループは、起訴状にある「海外のプラットフォームでの発言」と「非暴力トレーニング」という指摘は「『国家権力の転覆を扇動した』という政治的な容疑を正当化するための、政府による捏造の口実に過ぎない」と考えている。

王建兵の微信（ウィーチャット）アカウント名は「煎餅」。「煎餅」の友人によると、彼のフレンドグループはもともと公開されており、内容のほとんどは一般的に報じられている事件の転載で、たまに自作の詩を投稿することもあった。昨年の開廷期間中も含め、何度かアクセスして投稿を閲覧したときは過去数年の投稿を見ることができた。しかし今日再度アクセスしたら、半年前までの投稿しか見られないよう設定されていた。



「FreeXueBing」のメンバーは「WOMEN 我们」に対し、王建兵を裁判にかけするための根拠は明らかに不足しており、当局は証拠を捏造する必要があったのだらうと語った。「逮捕後、私たちは当局が両名の友人70人以上を尋問したことを把握しており、その尋問のほとんどが24時間以上に及んだ…そのうち2、3人の友人は虚偽の調書への署名を強要されたが、警察はこの中に彼らが必要としていたいくつかの根拠、例えば社会主義体制に対する批判などを織り込んでいました。」

これほどまでに大規模な捜査にもかかわらず、最終的に起訴状に書き入れられた証拠は、これもまた無理やり作り上げられたものだった。つまり、彼のアカウントでフォローしていただけただけのページやグループに、彼が「参加している」と当局が解釈したというものに過ぎなかった。

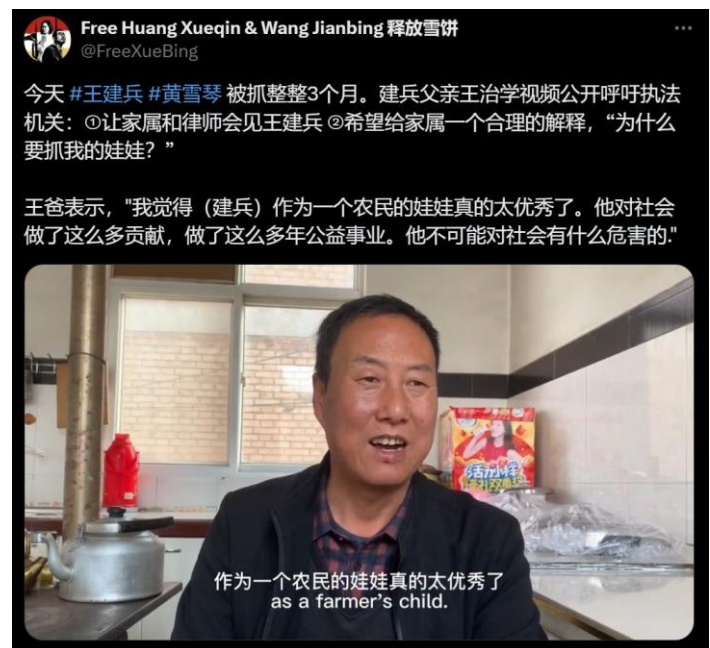
王治学は自分の息子がどのような人物なのかを完全には理解していなかった。「息子は大人になるまでずっと農村で育ってきたけれども、農作業はできませんでした。当時、我が家の経済状況は良くなかったので、私は自分が苦勞してでも彼らが勉強できるようにしてあげたいという一心でいました。末っ子も大学を卒業しています」。建兵は大学を卒業すると遠方で就職した。「建兵とは年に数回しか会えなかったもので、末っ子は手元に置いています。」

王治学が知っていたことは、息子が卒業後に北京で数年間働き、その後広州に行ったということだけだった。王建兵が広州に移住してから最初の数年間は、頻繁に家族に電話していたが、だんだんと連絡の頻度が減っていった。たまに帰省することがあっても、父と息子はあまりコミュニケーションをとらないこともあった。王建兵自身も感情を表現するのが得意ではなく、逮捕されて看守所に移送されたときに家族へ書いた手紙も、自分が経験している状況を簡素に書いただけだった。新しい場所に移送されたときには新しい連絡先住所を家族に送り、家族が心配しなくても済むようにした。

今回の審理は、王建兵が逮捕されて以降、王治学が初めて広州を訪れる機会であった。彼は王建兵の弁護士や何名かの友人に会い、広州での息子の生活や仕事がどのようなものであるかを初めて理解した。さらには、息子が英国に留学していたことさえも法廷の中で初めて知った。

王治学はいつも自嘲気味に、自分は立派に話すことができず、わかるのは農業だけだと言った。「広州に来て、あなた方が話している内容と私たちが話している内容が違うということに気づきました。私たちのような庶民と一緒に座って話すことといえば、良い土を育てるにはどうすればよいか、年間のやりくりにいづらくなるか、ということくらいです。話の内容はたいていこの二種類の話題です。」

「雪餅」が逮捕されてから3か月が経った2021年12月19日、王治学は法執行機関に向けて、家族や弁護士が王建兵と面会することを許可するよう求めるビデオを撮影した。ビデオの中で、王治学は息子について次のようにコメントしている。「私の息子（建兵）は14歳から成長して現在に至ります……この農民の子は本当に優秀でした。彼は社会に非常に多くの貢献をし、長年にわたって公益に適う仕事をやり遂げてきました。彼が社会に害を及ぼすことはありません。」



しかしいづらかの真実は、農民の素朴な畑仕事に通じる精神でこそ理解できる。「私たちの農村では、何人かで座って国家や指導者のことを議論できますが、農民はあなたたちほど教育を受けているわけではありません。私たちはただ口を開いて思うままに罵り、言いたいことを言うだけです。これは誰にでもできることで、なんでもないことで、それで誰かを取り締まることはありません……。なんとはいいいでしょう、息子は子どもの頃から実直で、悪事は働かない人間だと思ってきました。友達を騙したとか嘘をついたというようなことを言うこともありませんでした……ほかに考えられる理由があるとすれば『自由の自由』に関することですかね……以前もこのような事件が発生することはありましたが、連行されるにしても、こんなに大げさなレッテルが張られることはありませんでしたし、逮捕されても半年そこら経てば、それで釈放されたものです。今は以前と違います。国の政策も以前と変わってしまいました。」

記事をいくらか書いたり、意見を表明しても、それが社会に多大な危害を引き起こすことなどないのに、「どうして今はこれが犯罪とされるのでしょうか？」と彼は納得しなかったが、農民式にこの天命を受け入れた。彼の息子の親しい友人たちも「捕まってはまた釈放されているようです。ただ時間の過ぎしかたが違っていただけでしょう。確かに災いではあるけれど、あまり気にせず、時間が過ぎればどうってことはないでしょう。」

王治学は上告について何の期待も抱いていないが、家族として、息子が早く釈放されるかどうか、そして釈放された後の生活を心配している。「彼はすでに 40 歳で、まだ結婚もしていないのに、服役は経験してしまった。」しかし、不安を表すほかに、彼はこうも言った。「その時が来て、息子がまだ遠方で活動したいならそうすればいいし、もし故郷に帰りたければ、2 畝（ムー）ほどの私の農地を耕作することもできる。食べていくには十分でしょう。」

NGO 活動への幻滅

喪失感と失望、そして主流の NGO 団体に対する批判が加わったことで、彼は長年働いてきた NGO 活動の世界を離れ、職業病グループやじん肺の労働者への心理的支持やコミュニティ支援を始めた。そしてそれがまた、少人数での集まりやコミュニティへのコミットへとつながっていった。

小澤（シャオザー）と王建兵が知り合ったのは 2014 年で、ともに恭明センターで活動し、仕事のほかにも毎年の友人たちとの集まりでも顔を合わせていた。小澤の記憶では、煎餅は自分の経歴についてほとんど語らなかった。「彼はとてもゆっくりと穏やかに話しました。自分の経歴について率先して話すことはめったにありませんでした。彼がどのような生活を送っているか、何を食べているか、どこに住んでいるかなどは、いずれも重要ではないという印象を与えました。その年に彼はイギリスに留学しましたが、黙々と行き、黙々と帰ってきました。」



農村での煎餅（「雪餅」の友人提供）

王建兵が自分の経歴を集まりで話しているのを聞いたのは 2019 年になってからだった。彼は、王建兵が自分の最初の仕事について何かしら反省をしていると感じた。「彼は NGO の西部陽光での活動について話しました。彼は農村教育プロジェクトに取り組むために一人で田舎に放り込まれたそうです。彼は何も知らず、団体からのサポートもほとんどなかった。ほとんどすべて手探りでやるしかなかったそうです。」それを聞いた小澤は、現場で活動できたことだけでもよかったのではないかと彼を慰めたという。王建兵もその助言を受け止め、彼自身も農村で育ったこともあって、農村の環境に慣れ親しんでいたと思いなおすようになり、元気になっていったという。

王建兵は 2018 年に恭明センターを退職し、職業病やじん肺の労働者に対する心理的および地域的支援を担当するボランティアグループに参加した。

元同僚の阿海は、煎餅が出所後に MBTI テスト※を受ければ、彼は絶対 J タイプであり、仕事に対して自己完結したサイクルを持ち、すべてを秩序正しく進める人だと判断されるだろうと語った。「彼が保管しているプロジェクトの帳簿を見る機会があれば、彼が自分の仕事に対してどれほど真剣であるかがわかるでしょう。」

※訳注：MBTI（Myers-Briggs Type Indicator、マイヤーズ＝ブリッグス・タイプ指標）は、狭義には、個人がどう世界を認識し、物事への決定を下すかについての心理学的な選好を示す、疑似科学的な自己申告型のアンケート。J タイプは「判断型（Judging）」で、計画性があり、物事を整理し、決断を迅速に下すことを好む性格とされる。

王建兵は自分自身が話題の中心になることはほとんどなく、自分の経歴について話すこともほとんどないため、彼についての情報の多くは、その友人との継続的な交流を通じて得られた。労働者を支援してきた祥子（シアンズ）は、2018 年に王建兵が大手の NGO 業界から離れたことが、彼のキャリアにとって大きな変化だったのではないかと推測している。

「彼は長年 NGO 業界で働いていたこともあり、この業界にはやや批判的です。彼が以前働いていた恭明発展センターは、市民社会のエンパワメントに焦点を当て、市民社会の能力開発の促進に取り組んできたネットワーク型のハブ団体でした。その時の彼の業務はコミュニティ支援と能力開発に特化していました。その業務自体は悪いことではありませんでしたが、2015 年以降、政府による NGO 業界への圧力、そしてある種の自己検閲を感じたこと、そしてその後は NGO 業界も市場化された事業が主流になっていったと彼は感じていました。彼は NGO 活動における政治性と公共性の欠如に対して非常に不満を感じていました。彼自身も悪事を嫌悪しており、正しいことは正しい、悪いことは悪いと素直に感じるタイプで、間違いをただすことができない時には、それを寝平（^{ネンペイ}）する（寝そべり＝やり過ごす）にしても、絶対に迎合することはありませんでした。彼は実利主義者ではなく、事業達成のためでも妥協することを良しとはしませんでした。」

2013 年に広州に来て以来、王建兵は広州の市民社会の発展における非常に良い時期を経験してきた。しかし、2015 年には多くのことが起こった。「フェミニスト 5 人姉妹」の逮捕、北京の NGO「益仁平」のメンバーだった郭彬、楊占青の逮捕、弁護士に対する「709 大弾圧」、そして労働団体に対する弾圧が連続した。逮捕された人の多くは王建兵の友人や仕事仲間だった。祥子はこれらの事件が彼の政治的観念をよりラディカルにしたのではないかと考えている。「意識の面ではなく、思考と行動の面でのラディカル化です。彼は多くのことが絶望的だと感じるようになったのです。」

この喪失感と失望、そして主流の NGO 団体に対する批判が加わったことで、彼は長年働いてきた NGO 活動の世界を離れ、職業病グループやじん肺の労働者への心理的支持やコミュニティ支援を始めた。そしてそれがまた、少人数での集まりやコミュニティへのコミットへとつながっていった。

彼に対する起訴状では「社会的な問題について話し合う機会を利用して、中国政権に対する参加者の不満を煽った」とされたが、その集まりは実際には多くの人々の目には非常に真剣かつ穏健なものだったという。「2015 年以降もみんなは広州に住んでいますが、強い恐怖心を抱いていました。煎餅の友人の多くは投獄されました。市民社会の変化にも彼は非常に失望しています。彼はいくつかのコミュニティを再建したいと考えています。かりに市民社会を再建することはできないにしても、少なくとももう一度、みんなと一緒に活動を始めることが、彼が会合を主催した最も重要な目標だったのです。」

広州市海珠区新港西路 149 号 202 号室。後に犯行現場とされたこの部屋は、王建兵が英国留学から帰国した後に借りたものだった。彼が当初この部屋を借りたのは、会合イベントのためではなく、じん肺労働者のためだった。広東省職業病予防病院の近くにあるワンルームのアパートで、立地は非常に良いところで、家賃は月額 2600 元だった。広州の賃貸市場と王建兵の懐事情を考慮すると、これは実際にはベストな選択ではなかった。しかし、入院している労働者が気軽にやってきておしゃべりできるという事情を考慮して、無理をしてこのアパートを借りたという。また、じん肺労働者の多くは呼吸困難で、階段で高層階にのぼることができないため、値段的に高い 2 階の部屋を借りた。

じん肺労働者同士の往来を考え、煎餅は新港西路にあるワンルームのアパートを借りた。じん肺労働者がよく通う広東省職業病予防病院からは徒歩わずか 10 分ほど。

だが残念なことに、この部屋は期待していたような「じん肺労働者の応接間」にはならなかった。2020 年の新型コロナウイルスの感染拡大で、入院中の労働者の外出が禁止されたからだ。彼と労働者とのコミュニケーションのほとんどはオンラインで行われた。



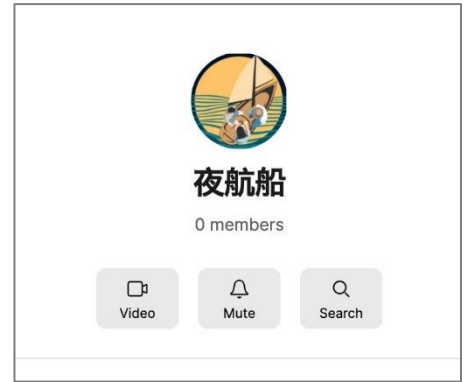
祥子の記憶では、2020 年 11 月から逮捕される 2021 年 9 月まで、労働者向けの交流活動は毎週木曜日に開催され、休んだのは旧正月の一回のみだった。誰もが学び続けたいと考えていることに気づいた王建兵は、広州を訪れていた多くの研究者にも参加してもらった。テーマが深刻すぎるときには、ボードゲームなどで息抜きすることもあった。

王建兵はいつも果物とお茶を用意し、全員の椅子が快適に座れているかどうかを気にしていた。時には 30 人以上の人が来て、客間に座るスペースがなく、立っている人もいた。王建兵は控えめな役に徹し、参加者が話す時間を確保し、必要な時には質問などをして話の進行をスムーズに進めた。これはある意味、長年のあいだに

会得した職業的技術のなせる業だった。「彼はみんなをまとめるという非常に重要な役割を果たしていました。彼はまったく存在感を感じさせることがありませんでしたが、常にそこには不可欠の存在でした」。

王建兵はこのコミュニティをとても気に入っており、「夜航船」と名付けて、小さなロゴをデザインした。「この名前は夜の帳の中で進む船をイメージさせます。真っ暗の中で方向感覚はないのですが、それでもみんなで力を合わせないと前に進むことができないのです」。

「夜航船」のロゴ。かつてにぎわったこのネットコミュニティも、「雪餅」が逮捕された後は、メンバー数がゼロになってしまった。



時代に挫折した読書人

彼は、自分がやるべきこと、やりたいこと、できることをただやっただけ。静まり返った真夜中に、彼は本棚の歴史上の人物と対話する機会に、心に恥じ入ることなく酒を飲みながら話すことができた。

王建兵は非常に重度のうつ病を患っていた。彼の友人たちは、彼のうつ病が 2014 年、2018 年、2021 年と 4 年周期で現れたり消えたりするのだと冗談を言うことがあった。

阿海は彼が子どもの頃の話をするのを聞いたことがある。「彼は、自分の家にはかなり遅くまで電線が来ておらず、窟洞（ヤオトン）の住居に住んでいたと言っていました。彼は黄土高原の気質を受け継いでおり、最も純粋でシンプルな労働者精神の持ち主です。生活スタイルは質素で、食べ物や衣服にあまり気を使わない人で、彼と食べ物について話したことはありません。彼は何か食べるものさえあればそれで良いと考えていました。」

王建兵は甘粛省の有名大学の一つである西北師範大学に学士号を取得するために入学した。祥子は、王建兵が長男で名門学校を卒業したにもかかわらず、すぐに NGO に就職したので大したお金を稼ぐことができず、また本人もお金を稼ぎたくなかったので、世間からのプレッシャーにさらされていたのではないかと推測する。阿海によると「煎餅のキャリアの選択はすべて、彼自身の苦難の経験から来ているので、困難な状況にある人々はもっと尊厳を持って生きられることを望んでいたと思います。」

王建兵はお茶と中国の古典文学が大好きで、家には四書五経や元曲宋词に関する本がたくさんあり、多くの古い言葉を知っていた。彼はよく「江湖辺」というバーに行き、そこで友達と熱燗にした黄酒を何杯も飲んでいった。それはとても小さな居酒屋で、オーナーは自分のバンドを持っていて、よく古典からの引用を自分の歌の歌詞に使っていた。王建兵はオーナーが間違っで発音していた「元曲」の言葉を訂正したことをきっかけに、リザーブ料金なしで利用できる「特権」を得た。彼には、新しい本を買うときは必ずクラフト紙で包むという独自のルールがあり、また読みながらパソコンにメモしたり絵を描いたりした。このルールは友人たちにもからかわれた。「彼はいつも、ほかの人が自分の本にペンでメモやチェックをしたらその本はその人にあげてしまい、自分はもう一冊新しく買うと話していました」。

広州市江南西のビジネス街にある煎餅がよく通ったバー「江湖辺」。（画像出典：インターネット）

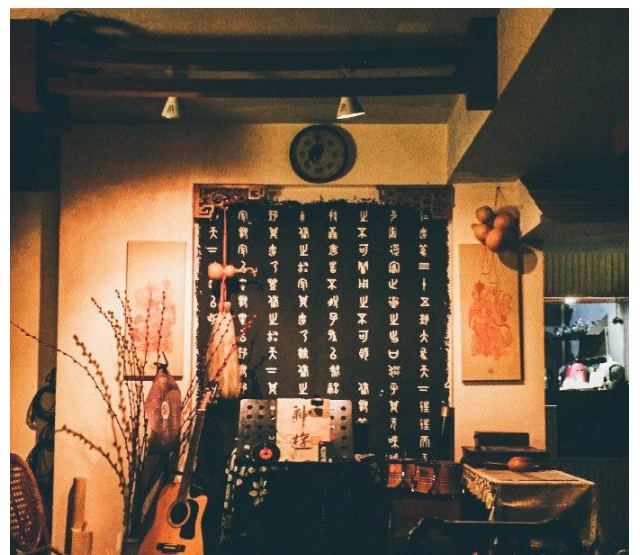
彼は詩を書くのが大好きで、陰鬱な韻律詩が好きだった（友人たちは彼が何を書いているのか理解できないと言う）。

三十而立立未得，四十不惑惑益生（30 歳にして身を立てるもしっかり立てず、40 歳にして惑わずとも益生に惑い）

清夢早隨春水遠，油膩漸共腹圍増（清らかな夢は春水に随って遠く、油膩は共に暫くして腹囲を増し）

蠻觸戰，蠅蝸名，滄浪濯足亦濯纓（蛮触の争、蠅蝸牛と呼ばれ、滄浪が足も纓も濯ぎ）

欲問前程君看取，蛤蜊將盡盤將空。（今後のこと君は如何に見るやと問えば、浅蜊の皿は空になる）



詩は彼の稀有な表現手段かもしれない。彼は感情を表に出すことはほとんどなく、会合ではいつも楽しそうにしていた。しかし、毎週何度も彼に会っていた友人の祥子は、煎餅が逮捕されるまでの一年間、あまりよく眠れず、仕事の効率も非常に低く、日中はほとんどエネルギーがなく、ぼーっとしたり一人でビリヤードをするのが好きだったという。



ビリヤードをする煎餅（写真提供：「雪餅」の友人たち）

阿海によると、当初王建兵と一緒に働いていたとき、出張のときに数時間もぶっ通しでカードゲーム『三国殺』をプレイしたり、仕事のあいまに麻雀やビリヤードをしたという。「この時の彼は生きいきしていて、目を細めて微笑み、笑さえ浮かべていました。」

王建兵は多くの友人に『三国殺』や麻雀の遊び方を教えた。小木の記憶では、たとえひどく落ち込んでいたときでも、彼は真剣にトランプをしてスコアを稼ぎ続けたという。会合で集まるときも、周りの友達には彼のプレッシャーを感じなかったという。彼が鬱で調子が悪いと聞いたとき、多くの人々の最初の反応は「驚き」だった。

ある日、木曜日の会合の後、数人の友人が遅くまでおしゃべりしていた。翌日、みんなで別の友人の家に行く約束をしたが、煎餅は断った。その時、小木はこう悟ったという。「煎餅の社交的熱量は実際には非常に低いと思いました。彼はどちらかというと躺平（ねそべり）のタイプなのだけど、労働者コミュニティのためなら元気を振り絞って何かをすることができるようでした。」

小木が煎餅に初めて会ったのは 2017 年に、彼女が働いている団体のオフィスの掃除に王建兵が手伝いに来たときだったという。その時はそれほど印象はなかった。「黙々と仕事をして、仕事が終わったらすぐに帰っていきました。」

二人の関係がより密になったのは、小木がかつてコミュニティで受けた性暴力を明らかにした時だった。加害者は王建兵の長年の知り合いだったが、事件が発覚したとき、王建兵はすぐに彼女の側に立ってサポートした。当初、彼女は王建兵とはあまり親しくなかったため、少し警戒していた。彼女は後にゆっくりと理解していった。「この人は自分と親しい人だから味方をするのではなく、自分の考えに基づいて行動したのです。事件の経過を理解して、彼も悲しい気持ちになったのでしょう。その共感が彼を女性の側に立たせたのでしょう。」

その事件が公になってから間もなくして、小木は癒しを求めて昆明に移り住んだ。王建兵は時々彼女にメッセージを送った。当時、小木はお茶の淹れ方を習っていたが、彼女の収入はそれほど良くなかったため、王建兵は彼女から「お茶を買う」ことで、友人への支援を表明した。王建兵は彼女に 1000 元を振り込み、お茶代はここから少しずつ差し引いてくれればいいと伝えてきた。彼が逮捕されたときにはまだ残額が残っていた。

小木は時折広州に戻ることがあり、王建兵は敬意と気遣いに満ちた態度で彼女を会合に何度も招待した。「彼は私に『みんなと一緒にいたほうがいいのか？ みんなと一緒にのほうが癒されるのか？』と尋ねてきました。」日常的な交流においても、王建兵は常に非常に思慮深い行動をとってきた。あるとき、彼は小木にアドバイスを求めてきた。彼女はオンラインでのコミュニケーションでいいのではないかと思ったのだが、彼は直接会って話がしたいといい、小木を夕食に招待した。そして、いろいろと話した最後になって、彼が何についてアドバイスが欲しいのかを理解した。小木は後々になって「煎餅の心的状況は私よりももっと深刻だった」ということに気が付いたという。

祥子が最後に記憶に残っているのは、建兵が逮捕された日のことだ。親友の自分がすでに海外に渡航し、もう一人の親友である雪琴もまもなく留学にいくので、煎餅は落ち込んでいるだろうと思っていた。その日のお昼に祥子は王建兵に「最近よく眠れてる？」とメッセージを送り、一時間後に王建兵から「相変わらず」と返事が来た。それは数時間しか睡眠時間が取れてないということだった。彼はそのメッセージにすぐに返事をしなかった。それが王建兵が逮捕される前に送った最後のショートメッセージであり、祥子とのあいだで交わされた最後のショートメッセージとなった。



2021 年、雪琴と建兵が広州で一緒にハイキングしているときの一枚。（写真提供：「雪餅」の友人たち）

「彼がどんな人なのか、特に適切な言葉や文言がまだ見つかりません。」阿海はそう述べた。「私は彼が勇敢で、恐れを知らず、偉大であると言いたいわけではありません。これらの簡潔な言葉は彼を単純化してしまいます。彼は沈黙を使ってそれらの『求而不得（求めても得られない）』を昇華し、また自分の行動によって『理应如此（そうあるべきこと）』を買きました。彼は、自分がやるべきこと、やりたいこと、できることをただやっただけです。静まり返った真夜中に、彼は本棚の歴史上の人物と心に恥じ入ることなく酒を飲みながら話すことができました」。

今年 3 月、小木が王建兵の実家に家族を訪ねたとき、彼の实家では相変わらずリンゴを栽培していた。王の父親は新たにサクランボを植えており、ぜひ 2～3 年後にもう一度来なさい、サクランボが食べられるからと教えてくれた。王建兵はこの数年、実家から送ってきたサクランボやリンゴを広州の友人たちに配っていた。

王建兵の家族は、今年（2024 年）の年末までに彼が釈放され、正月には彼が帰郷できることを楽しみにしていた。判決が下されたとき、刑期は弁護士や家族の予測とそれほど違いはなかった。もしアクシデントさえなければ、来年 3 月には酒を飲み、本を読んで、詩を書き、「水色のケースの中南海を吸う」自由な生活を取り戻すことができるだろう。



2015 年 9 月 13 日、石家荘の「障がい青年パートナーキャンプ」に参加した煎餅と 20 名の障がいを持つ青年たちが、裕華万達スクエアで披露した「共生ダンス」。（写真は「雪餅」の友人たち提供）

（小澤、小木、阿海は本人の要望で仮名にしました）